

おしえて、エコチル先生！（第1回）

愛知ユニットセンター長 上島通浩先生

（聞き手：千葉大学准教授 戸高恵美子）

- こんにちは。先生は、環境保健がご専門のお医者さんとうかがいました。どんなことをしていらっしゃるのでしょうか？

環境保健学とは、日常生活や職場の環境が健康にあたる影響を明らかにして、病気を予防する医学です。特に、化学物質がどのくらい身体の中に入ったら、どんな健康影響がでるか判断することが、私の専門です。

医学部の学生に予防医学を教えることと、安心な環境基準づくりに役立つデータを得るための研究が、私の仕事の中心です。職業病やシックハウス症候群などの患者さんを診察することもあります。

- 今回エコチル調査にユニットセンターとして参加されることにしたのはどういうお気持ちからですか？

そうですね、中学生の頃、有吉佐和子さんの「複合汚染」という本を読んで、ごく微量の化学物質が健康を害するかもしれない、という内容に強烈な印象を受けました。

その印象は長く残り、やがて、社会や環境を良くして病気を防ぐ医者になり、世の中に役立ちたい、という強い願いに変わりました。そして、今の専門分野に入ったのですが、医者になって最初の数年は、病院や診療所で子どもの患者さんもたくさん診ました。患者さんの苦しそうな様子や親御さんのご心配に触れ、何とかしたいと強く思った経験は、ふり返ってみますと、私がエコチル調査に関わる背景の1つになっていると思います。

今回、縁があってエコチル調査に出会い、自分の定年までの残りの時間と調査の期間がちょうど同じくらいであることを知り、人生の『めぐり合わせ』のようなものを感じました。

- 子どもの姿には、未来という希望を感じてこちらも元気になります

ね。

本当にそうですね。エコチル調査は、子どもの成長をみんなで見守りながら、この子たちの明日をつくる国の事業です。そのお手伝いができるのを幸せに思うとともに、やり遂げることは自分の使命だと感じています。

— ありがとうございます。

(2011年11月21日)



■今月のエコチル先生

上島通浩 先生

エコチル調査愛知ユニットセンター長
名古屋市立大学大学院 医学研究科教授
母と子どもの健康・環境総合研究センター長
愛知ユニットセンター・ホームページ
<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/ecoaichi/>